

新しい(NEW)理想郷(UTOPIA)

NEW TOPIA

N.135

2023 4.15

岸和田市国際親善協会だより

INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION OF KISHIWADA

にゅとぴあ岸和田

ifa-きしわだ

「やさしい日本語を使いましょう」 市長へ贈呈

にほんご
やさしい日本語で紹介
きしわだぎょこう
岸和田漁港

岸和田に暮らして…
中国山西省 劉さん

3年ぶり
KIX泉州国際マラソン

紹介 ホームビジット

新連載 世界の民族衣装
「ウクライナ」

連載 English Open Café

特別企画

ポール先生ありがとう



Since 1989

ifa-きしわだ
岸和田市国際親善協会



表紙デザイン Shinako Abue

「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にした親善・交流を通して互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



贈呈式の永野岸和田市長と井上親善協会会長

市制施行100周年記念協賛事業として昨年11月1日に発行の「やさしい日本語を使いましょう」小冊子1500部を岸和田市に寄贈しました。

これは岸和田市の国際化推進の一助にと本協会が編集・印刷したもので、外国人やお年寄りにもソフトで優しく、簡単で易しい日本語の普及を目指すためのものです。来庁の窓口の手続きや相談業務での活用が期待されます。

永野市長からは、ぜひ普及させましょうとの力強いメッセージをいただきました。

無料です

「やさしい日本語を使いましょう」

岸和田市国際親善協会編集

「日本語は難しい?」でも私たち日本人が、わかりやすいように少し話し方を変えるだけで、理解しやすく不安が軽減されます。

「やさしい日本語を使いましょう」は、日本語の用例を生活シーンに分けてわかりやすく掲載しています。

★希望者は巻末の事務局までご連絡ください。



多文化共生講座・国際交流

「やさしい日本語」を使いましょう



外国人サロン生



通じてるかな?

「やさしい日本語を使いましょう」の冊子を実際に使って外国の方々とおしゃべりをする集まりがありました。

広報きしわだなどを見て申し込まれた市民の方20数名と日本語サロンで日本語を勉強している外国の方10名、国際親善協会の会員、合計約70名が参加。当日はテレビ岸和田の取材もあり会場は始まる前から期待と不安でいっぱいです。

最初に「やさしい日本語」の実例として、市役所などの窓口でのやり取りを説明。普通の日本語では難しく、通じないこと。やさしい日本語にすれば通じることを冊子を編集した編集委員長の東田和代さんが説明します。その後グループに分かれ病院や学校、災害の場面、日常のゴミ出しのルール等について実際にやさしい日本語でどのように説明すればよいのかを話し合います。グループで意見がまとまった頃に、各グループに日本語サロンで勉強



東田編集委員長説明

中の外国の方が参加。彼らは最近来日した方や数十年住んでいる方もおり、一言一言確認しながら説明していく、まさに実践です。

その後、各グループごとに発表。

「普段何気なく私たち日本人が使っている日本語が、いかに外国の方には難しいかがわかった。」「生ごみの出し方は岸和田市のピンクの袋の写真で説明した。」などすぐに活用できる意見も発表されました。

最初はみな緊張していましたが、終わる頃には、出身のお国の事や家族の事、岸和田の印象を聞くなど和気あいあいの国際交流の時となりました。

参加された「やさしい日本語」有志の会 代表花岡正義さんから「冊子を作る団体は日本にはたくさんあるが、実践の勉強会をしているのは岸和田市国際親善協会が初めてです。」とお褒めの言葉をいただきました。

(事業部会・日本語サロン部会)

3年ぶりの開催となった、第30回KIX 泉州国際マラソン。

ランナーにとっては暑すぎるほどの早春の日差しの中、岸和田城がフィニッシュとなるチャレンジラン (20.4Km) のゴール会場の二の丸広場へ。「国際マラソン」の名前どおり泉州9市4町の友好都市からの参加選手もあり、国際色豊か。

スタート地点の浜寺公園から大阪和泉泉南線を南下してきたランナーは岸和田市役所前で左折、だんじり祭りの名所「こなから坂」を最後に上りつめゴールです。

先頭ランナーが帰ってきました。「一位は坂東さん、今ゴールです」アナウンサーの声が会場に響きます。ほどなく「キンタニジャ・ヘクターさん、6位でゴールです」。

早速、インタビュー。「天気も良く、沿道の応援に励まされ、気持ちよく走れました。」「岸和田城のような素晴らしい日本文化の場所にゴール出来、とても良い記念です」

「私はアメリカ生まれのメキシコ人で、大阪市内のインターナショナルスクールで教師をしています。」と流ちょうな日本語で答えてくれました。

次は3週間後の東京マラソンを走るそうです。



Malcolm R Mahadevan
ご夫妻



キンタニジャ・ヘクターさん
交流センター(二の丸広場)にて

その後、お堀のそばに腰かけて携帯電話で話しているランナーにインタビュー。

「シンガポールから妻と一緒にこのマラソンのために来ました。今、国の子どもに、レースの結果を報告していました。」「沿道の皆さんが温かく、日本人が大好きです。」

会場で販売しているおでんをご夫妻で仲睦ましく、おいしそうに食べているのが印象的でした。(取材 広報部 内田満弥、三森すみ代)

やさしい日本語をしましょう。

きしわだぎょう 岸和田漁港

おおさか 府 中 で 一 番 た く さ ん 魚 が と れ る と こ ろ で す。

まい と し お 正 月 に 大 漁 旗 (魚 が た く さ ん と れ た こ と を 祝 う 旗) を 立 て ま す。

よ く と れ る 魚 は イ ワ シ、カ レ イ、ア ナ ゴ、ス ズ キ、タ コ で す。

まい し ゅ う に ち ょ う び 日 曜 日 「地 蔵 浜 み な と マ ル シ エ」 を 開 っ て い ま す。

あ さ と っ た 魚 を す ぐ に 食 べ る こ と が で き ま す。

ま る し え マ ル シ エ は 市 場 の こ と で す。

ば ー べ き ゅ う バ ー ベ キ ュ ー も で き ま す。

く わ し い こ と は み な と オ ア シ ス 岸 和 田

(minatooasis-kishiwada.com) を 見 て く だ さ い。





将来日本で大使館への勤務や対日関係にかかわる仕事をするようになる、世界の若手外交官たちが関西国際センターで8か月に及ぶ日本語・日本文化の研修を10月から受けています。

研修の一つに日本の家庭を訪問する「ホームビジット」があり今回二人の外交官が我が家を訪問することになりました。と書くとても堅苦しく、粗相でもあれば国際問題にもなりかねません。いえいえ、そんなことは決してありません。「一緒に食事をしながらぺちゃくちゃ、できれば日本語でお話しよう」が訪問の目的。

二人の外交官はサヤ・モハメドさん(モルディブ)とエ

ルヤシ・マフディさん(イラン)。女性は世界のハネムーンをあこがれの地として名高い、インド洋に浮かぶ美しい島からなるモルディブ、そして男性はペルシャ宮殿や遺跡、美しいモスクのあるイラン出身。

そしてこのお二人の共通点がともにイスラム教徒。

当然豚肉はNG、アルコールもNG、「さあ、困った。粗相があってはいけません。」

そこで野菜中心の巻き寿司と、牛肉を使った瓦そば。二人ともお箸も上手に使って、「とても美味しい。瓦そばのレシピを教えてください」と大好評です。

敬虔なイスラム教徒は一日5回メッカの方角に礼拝するのですが、今は旅行中の人と同じく3回ですませているとか、ラマダン(断食)の間は日没後におなか为空いて、夜にいっぱい食べるから逆に体重が増えることがある、とも。

「サヤさん、頭につけているヒジャブを日本にはどれくらい持ってきているの?」の質問に「10枚くらい」。「それは大切なものだから手洗いですよ?」「いいえ、洗濯機で洗います。」

堅苦しくなく、楽しく国際親善ができるホームビジット。お二人が将来在京の大使館勤務になったらまたお会いしたいです。(内田満弥)

李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修

ホームビジット



お家に着く前に岸和田城を皆んなでみて 1954年に再建された事を聞きました、お天気も良く青空の下でのお城はとてもキレイで、そんな話から、青空がすごい青くて綺麗な事と星空が見えるのが日本に来てすごいな〜って事を話してくれました、韓国では星があまり見えないってゆう事を聞いてクワクワ(그렁구렁)な話でした。

ほぼ小4の息子仁太の遊び相手にきてもらった感じ。ゲームやかるた・キャッチボールなどしてもらって仁太は楽しそうやった。晩ごはんは大阪と言えばなお好み焼き◎美味しいと食べてくれた。

最後にこたつの部屋に案内したら凄く飛びついてくれて、こんな当たり前が一番良かったんやな〜ってこちらも勉強になりました。こたつに入りながら最後のカードゲーム演技力が少し入る“はあってゆうゲーム”これもかるた同様出来るんかな〜って思いながらしてみたら、すんなり出来た!!感情も似てるからしやすいゲームやったんかな。初めての受け入れやったから、あーしてあげれば良かったとか、こうしたら良かったなって思う事も多かったけど、3人共(シンちゃん・ジュンくん・イエヨンちゃん)とてもいい子でほんまに会えてよかった。また日本に来る事があたら会いに来て欲しいな私たちも韓国に行く事があれば会いに行きたい。

今回家族みんなが思った感想は終始日本語が上手でびっくり、ただただ海を越えてやってきた日本の高校生の感覚でした。

(柏木絵里子)



ゲームで国際交流

劉喜英 (りゅうきえい) さん
中国



日本語サロンの生徒の劉喜英さんは中国山西省大同市出身、同郷のご主人、今年小学生になるお嬢さん文馨(ぶんきょう)ちゃんの3人家族。2008年に語学留学生として来



日本語サロンで

日、その後結婚し2016年から岸和田で暮らしている。

今、一番の関心事 文馨が4月から市立天神山小学校に入学します。地元の幼稚園に通っているので、日本語は家族3人の中では一番上手です。家の中では中国語で話していますが、中国語を忘れないように、インターネットで中国語の個人レッスンも受けています。

日本語は難しい 漢字の意味はわかるのですが、読みが難しいです。特に訓読みは難しいです。私の名前の「喜」を「よし」と読むことを始めて知りました。また同じ漢字でも日本と中国で意味が正反対になることも驚きました。「謝」です。中国では「謝謝」は「ありがとう」ですが、日本では「謝」は「あやまる」の意味もあるのですね。

岸和田の一番の印象 娘を岸和田市民病院で出産しました。異国の地での出産はとても不安でした。しかし産婦人科のN先生をはじめ看護師さんやスタッフの方がとても親切で、安心して出産できました。今でも病院に行くとN先生が「文ちゃん、大きくなったなー」と声をかけてくれます。岸和田で出産して本当に幸せです。

今後の目標 日本語検定のN1合格です。日本語の微妙なニュアンスが難しいことと、漢字を正しく日本語で発音することがまだまだ出来ません。そのためこの日本語サロンで勉強しています。



大同市の世界遺産 雲岡石窟



大同市ランタン祭り

異国の地、岸和田でお嬢さんを出産、地元の学校に通わせ岸和田に身も心も馴染んでいる劉さん、日本語サロンでは素敵な笑顔を絶やさず、一生懸命学び、わからない言葉や漢字はすぐにノートにメモを取るその真摯な姿勢に逆に私が学ばせていただいています。

(日本語サロン 内田満弥)

世界の民族衣装

ウクライナ編



KIMONOクラブに入ったことが縁で「にゅ〜とぴあ岸和田」の編集部員になりました。着物が好きで、きもの文化検定1級取得を目指して勉強中です。

着物は唯一無二の日本独自の衣装と捉えられていますが、歴史を紐解いてみますと中国大陸や中央アジアからの影響を多大に受け、また西欧諸国や南方系の染織技術や意匠を柔軟に取り入れながら今日の姿に到達しました。着物は国際交流の賜物で、世界はひとつに繋がっています。新連載「世界の民族衣装」の1回目はウクライナです。

ソロチカ(Сорочка)



ソロチカを着る少女

ウクライナの女性が着る民族衣装シャツをソロチカ(Сорочка)と言います。ソロチカという名はウクライナ語で40の数を表し、40番手の細い糸を使っている高級な布という意味だそうです。ソロチカには、襟元、袖、裾の外界との境目に丁寧に刺繍が施されています。これは病気や悪霊などの「悪しきもの」が身体に入らないよう「魔除け」の意味があります。美しいウクライナの刺繍の模様は数千種あると言われていて、富、健康、愛などそれぞれ意味がついています。

日本でも、子どもの産着の背中に飾り縫いをする「背守り」という風習があり、紅白、または5色の糸で針を12回(12ヶ月=1年を意味する)刺繍します。日本には古くから「着物の背中の縫い目が魔除けとなり身を守ってくれる」と言われていて、小さな子どもの着物は一つ身で背縫いが無いため、背守りの刺繍をして「悪しきもの」から子を守るのです。ウクライナの刺繍と同じですね。

戦禍のウクライナから「悪しきもの」が立ち去り、1日も早く平和な日々が戻ってくることを祈ってやみません。
(新矢由紀)



民族衣装 デール姿のゴアさん

12月のEnglish Open Caféのスピーカーがモンゴルの方だと聞いて、15年ほど前にモンゴルを旅したことを懐かしく思い出し参加させていただきました。

スピーカーのゴアマラル・ツウメンジャルガルさんは、デールと呼ばれる赤い民族衣装で登場されてモンゴルのお話を始められました。スクリーンに映し出されたモンゴルの首都ウランバートルの写真に驚きました。高層ビルがたくさん建設されていて15年前の姿とは全然違っていました。人口は332.9万人、大阪府など相手にならない広大な国土に、大阪府より少ない人々が暮らしていると聞いて2度びっくりしました。モンゴルにも四季があり、月割りも日本と同じです

が、春の気温がマイナス20度から10度、夏は40度、秋は20度からマイナス20度、冬はマイナス40度にまでなるそうです。夏の40度は想像つきませんが、冬のマイナス40度は全く想像つきません。首都から少し離れると大平原が広がっていて、夏は緑の草原、秋は黄金色の木々、冬は一面の雪景色の写真がとっても美しかったです。子どもたちは今も昔も家の仕事をしっかりと手伝っているようで、小さい子でも馬に乗って放牧の仕事もこなすそうです。お祭りなどの文化のお話のほか、日常の挨拶や教育制度など日常の身近な話題も多かったので、たくさんの質問の手が挙がりました。それに一つずつ丁寧に答えていただき、大変盛り上がった会になりました。(松本順子)

イバニセビッチ・ペタル さん (Ivanisevic Petar) モンテネグロ

02.18 土

ザリフォフ・ハサン さん (Zarifov Khasan) タジキスタン



今回のゲストは二人の外交官、モンテネグロからペタルさん、タジキスタンからハサンさんです。前半と後半に分けて、それぞれご自身のバックグラウンドを少し、それから祖国の概要、歴史、風景、

文化などを美しいスライドを使って魅力的に紹介していただきました。

EOCの良さは、行ったことのある国、行ってみたい国、到底行けそうにはない国について触れることのできる貴重な機会であるとともに、ゲストの方のパーソナルなエピソードを通じて、その人のお人柄や、後ろに透ける国民性を感じられる点だと私は思います。今回の両国はほぼ知識ゼロからのスタートで、もっと時間をとって踏み込んだお話が聞きたかったと少々もったいない気がしました。

まずペタルさんのお話では、スイスでの国際色豊かな寄宿高校生活が印象的でした。そこで今のお仕事につな

ペタルさん
モンテネグロ

まずペタルさんのお話では、スイスでの国際色豊かな寄宿高校生活が印象的でした。そこで今のお仕事につな



フィットリア
・ラマダニさん
インドネシア

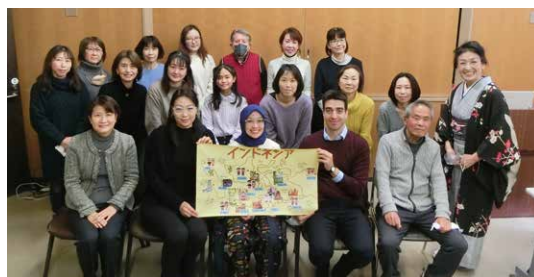
インドネシアの外交官である彼女は、現在は日本の文化・言語を学ぶために DLG8ヶ月間のプログラムで来日し3ヶ月経っています。外交官としてのプロフェッショナル力以上に人間力を磨くために来日した彼女のプレゼンテーションから真面目さ、積極さ、前向きさ、母国を愛する心等沢山の事を学びました。彼女は2018年に試験に合格し、1年間の厳しい訓練を乗り越え、2019年にインドネシアの外交官になりました。チームを後ろから支える彼女の仕事は病気になるでも入院する暇もないぐらい忙しく重要な仕事である事が分かりました。当日はインドネシアについてQ&Aゲームを

通して楽しく学ばせて頂きました。インドネシアは海で5ヶ国とランドで5ヶ国に国境が繋がっていて物流的に非常に有利な国だなと思いました。それ以外にインドネシアには冬はないが雪が降る場所がある事を初めて知りました。基本、

梅雨(11月~1月)とドライ(2月~10月)という2つの季節はあるが、旅行するにはどの季節も適しています。インドネシアは300ぐらい民族がいて衣装や料理が違うそうです。国語はインドネシア語だが、700ぐらいの民族言語があることはとても興味深かったです。最後に彼女にインドネシア人としての誇りを尋ねると「歴史豊

かで、どこへ言ってもとてもフレンドリーでハッピーな民族」であることを聞きました。いつかインドネシアへ行ってみたいですね。

(ゴアマラル・トウメンジャルガル)



ハサンさん
タジキスタン

がる国際感覚が磨かれたのでしょうか。モンテネグロは旧ユーゴスラビア解体で共和国となった歴史があり、共産国家から民主国家への変遷についての様々な思いについて聞いたことも良かったです。

ハサンさんのお話で初めて知ったのは、ちらっと紹介された写真から上海協力機構という中国を中心とした中央アジア6か国とインド、イランの9か国で作る軍事的、経済的、貿易面などで協力する地域組織を知ったことです。すでにご存じの人には今更?なんでしょうが、これもなかなか興味深い。

知っておかないといけないことは沢山あるのだと改めて感じました。

(梶谷美加)



「モンテネグロはここですよ」ペタルさん



タジキスタンの民族衣装を紹介するハサンさん

ポール先生 ありがとう

特別 企画

岸和田市で40年以上に亘り子どもたちに英語を教えてきたポール・プリコーン (Paul Pricone) さんが、今年5月に帰国することになりました。1981年に来日してから、企業、保育園、中学校、高校、公民館等、各所で英語を教えてきたので、にゅ〜とぴあ岸和田の読者の中にもポール先生に英語を習った人がいるかもしれません。

コネチカット州のマンチェスター (Manchester) で生まれ、ニューヨーク近郊のニューロシェル (New Rochelle) で姉と弟と共に育ったポール先生は、ニューヨーク州立大学では数学を専攻し空手部に所属していました。在学中に初段になり、卒業後3か月の予定で空手の稽古のために来日し、林派糸東流会の宗家に入りました。そして、その後早い時期に英語を教え始め、長年英語の教育に携わってきました。

ポール先生の教授法は、クラス全員の子どもが参加し学べるアクティビティにすることです。子どもが何かをしたいという気持ちと行動 (アクション) と英語をうまくつないで、皆が「できる!」「うれしい!」という気持ちを持つようなクラス作りを心がけています。また、それぞれの子どもが持っている多様な可能性を英語で引き出すことで、皆に自信がついてクラス全体がまともに進歩していくということです。12年前からは姉妹園の園長先生となり、まさしく幼児教育の専門家になったわけです。



I hope my classes have helped you develop a basic understanding of English and gave you the drive to study more after graduation. I encourage everyone out there to study and pursue a career in an area of interest, and for those with children to help your child achieve their dream.



空手は今でも毎日形の練習をしているそうです。そして、子どもの頃から自転車が好きで、大阪市内の自転車クラブに所属し、これまで15回くらいレースに出て入賞しています。早朝からクラブの仲間と遠出して長距離のサイクリングをしたり、毎週日曜日には金剛山へ行って練習しました。そうお話しするポール先生の目は生き生きしています。また、久米田池周辺へもよく散歩にでかけるそうです。

現在はコロラド州デンバー近郊に住むご両親の元に帰ります。お父さんは4月に100歳を迎えられるそうです。デンバーの夏は気温が35度まで上がり、冬はマイナス10度まで下がります。カナダからの風が吹けば寒くなり、メキシコからの風が吹けば暖くなるというわけです。帰国後の予定はありませんかと伺うと、近所の公民館のボランティアグループに入って活動したい、空手も道場があれば再開したいとお話いただきました。

たくさんの教え子とたくさんの友だちが日本にいるポール先生。自分自身も岸和田に住み、地元の子どもたちの国際教育に尽力してくださいました。どこへ行っても「ポール先生」「ポール先生」と声がかかります。いつもユーモアを持って笑顔でいてくれたポール先生から皆さんへメッセージをいただきました。(三森すみ代)

ありがとうございました。お元気で! All the best!

Informations

「第16期日本語ボランティア養成講座(初級)」講座生募集

外国人に日本語学習の支援をします。

【日時】5月25日～11月30日の木曜日
午後7時～8時半(全21回)

【場所】旭地区公民館(土生町4丁目 リハーブ4階)

【対象】2年間の講座修了後、日本語サロンでボランティアとして活動できる方。年齢・資格・外国語能力は問いません。
受講料無料、テキスト代実費、協会へ入会(年会費2千円)

【説明会】4月20日(木)午後7時～
旭地区公民館(土生町4丁目 リハーブ4階)

*説明会に出席できない方は、申込時にその旨伝えてください。

English Open Café

【日時】9月以外の第3土曜日

13:30～15:30

【場所】マドカホール 3F 視聴覚室

【費用】無料

*事務局へお申込みください。

各国からのゲストをお招きし、
英語でプレゼンをしていただき交流を図ります。

先着20名
まで受付

2023年度総会

【日時】5月13日(土)14:00～

【場所】浪切ホール4階 交流ホール

*詳しくはご案内をご覧ください、出席のご連絡を事務局へお願いします。

にゅ〜とぴあ岸和田 No.135

ifa-kishiwada 岸和田市国際親善協会

編集担当 虹江詩奈子・内田満弥・川井美智子
新矢由紀・田中洋子・西村紀子・三森すみ代
お問い合わせや感想などは事務局まで

TEL.072-457-9694 火～土
10:00～16:00

E-mail: kokusai@sensyu.ne.jp
http:// ifa-kishiwada.rinku.org